

2013年9月5日・週刊きたかみでは

枯葉剤被害者支援企画

2冊のベトナム関連書籍発刊

北上の詩人らも定期刊行誌に作品発表するコールサック社から2冊の本が送られてきたベトナムに関する新刊である。一冊は日本の詩人70人、ベトナムの詩人105人が参加したアンソロジー詩集。『ベトナム独立・自由・鎮魂詩集 175篇』（日本語・ベトナム語・英語合併版）A5判ソフトカバー 632ページ（2500円＋税）。一冊は『家族、仲間、そして祖国—元国家副主席グエン・ティ・ビン女史回顧録』46判ソフトカバー 368ページ（本体2000円＋税）。

日本とベトナムの国交樹立40周年・枯葉剤被害者支援企画としての趣旨の発刊である。回顧録は売上げ10%、詩集は5%を枯葉剤被害者に寄付する。今回の出版に関し、8月6日、東京・六本木の国際文化会館別館で記者会見。同社の鈴木比佐雄代表が発刊趣旨・内容を説明した。

「なぜベトナム人にはこれほど揺らぎのない独立・自由の精神が備わっていたのか、（略）ベトナムの精神の秘密は、この詩集を読めば、私たち一人ひとりに105篇の回答が語りかけてくるだろう」と鈴木氏。

回顧録には元総理・村山富市氏が帯文・序文を寄せ「ベトナム人民の救国戦争と、息づまるような『パリ和平会議』の一部始終を知ることができました」と記す。ベトナム戦争当時、日本でも反戦運動が激しく、様々な行動展開があった。その中でも、「ベトナムに平和を！市民連合」（ベ平連）が故小田実氏を代表として目覚しい活動を行った。作家で元ベ平連世話人の小中陽太郎氏は「二〇世紀の民族と女性の闘争の記録である」と跋文で書いた。いわゆる団塊の世代にとっては、ベトナム戦争と枯葉剤、ナパーム弾など、記憶から消しがたい時代の象徴でもあろうか。若い層なら「地獄の黙示録」「プラトーン」などの映画で覚えているかもしれない。

同社は「枯葉剤被害者の日」である2013年8月10日を発行日とした。

一般書店で扱っている。コールサック社（TEL 03-5944-3258）

と紹介されています。